

*：3つの目的

住宅のリフォームと呼ばれること幅は広い。3つのグループに分けてみる。

1つ目は、新築時から時

【Kさん邸のリフォーム歴】

1回目	ダイニングキッチン改修	1988年
2 //	主寝室・子供部屋改修	1992年
3 //	リビング改修	1993年
4 //	和室・トイレ改修	//
5 //	サロン増築	1997年
6 //	洗面・浴室改修	//

Let's リフォーム

西田恭子

メンテナンス、性能アップ、リモデリング

がたつにつれ汚れていくクロスの張り替えや壊れた機器の交換などの「メンテナンスリフォーム」。

次に新築時には良かったことが、いまや時代性を欠くこと。例えば、階段の手すりは今なら必須。火災警報器も一般家庭に義務付けられ、付けなければ建築確認申請は下りない。また、耐震性も断熱性も現在の基準に適合させる「性能アップリフォーム」。

最後は、それを踏まえてわが家の場合は?と、家族構成や年齢で変わる家族像に合わせた「リモデリング」だ。10年たつと、性格さえも変わってしまったとい



ごKさん。19歳で住まいた。19年前、ご主人とご主人の心通じがよくなりました。



る方がいる。きれいな好きだったはずなのに、物があふれて足の踏み場もない暮らしになっていたり、ガーデニングが趣味といていたのに、草取りに追われる日々はもうたくさんと感じていたり。そんな時は、「収納リフォーム」や「エクステリアリフォーム」の出番だ。リフォームの面白さは、暮らしが変われば家も変えていくことにある。

右の写真は、Kさんと私の19年前と今のKさんご夫婦だ。キッチンの交換から始まったリフォームは、子供の独立後は広々寝室の確

保。シンメトリーに領域確保された寝室は夫婦同寝室ながら、それぞれの自立を感じる。次には夫のリタイア後を見越して夫の居間と妻のサロン。そして親の介護のためのリフォーム。次には自分たちの老後のバリアフリーリフォームと、住まいを、変わる暮らしに合わせて造り上げてほしい別表参照。いまや「西田さん、私ねえ」と電話がかかると、きつとまたリフォームがやりたくなくなっていらっしやるんだな、とピ

ソとくる。どんなにピカピカの家を新築しても、次の目からメンテナンスリフォーム、性能アップリフォームの予備軍になる。どうせその時期がやってくるなら暮らしを見直し、快適なりモデリングまで持っていきたい。次回からは、そのためにはリフォームをどう考えていけばいいのかわからない。次回からは、(三井のリフォーム 生活研究所所長、1級建築士)



子大学非常勤講師。著書に「リフォーム成功の素敵なレシピ」「永く住み継ぐツーバイフォー」ほか。

■にしだ・きょうこ 日本女子大 学住居学科卒。1級建築士。リフォーム設計25年の実績のもと平成19年から現職。新聞、雑誌、書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子